

故大平総理の想い出

ロバート・S・インガソル

偉大な精神力と温かさをたたえ、独自の哲学を持った人　故大平総理は私の目にはいつもこのように映った人でした。そうした大平さんの人となりには、毅然たるなかにもおおらかさをもつて人生に臨むという態度がにじみ出ていたように思われます。いかにも自制心の強そうなその大平さんが、一度だけハメを外されたのを覚えております。私が駐日大使をしていた頃、大平さんがキッシンジャー博士の訪日に際して歓迎の席を設けられたときのことです。

日本の宴会では、客人たちが詩吟や歌や踊りなどの余興を演ずるのが恒例となっています。その夜も何人かが隠し芸を披露したあと、当時外相をされていた大平さんから、私がハーモニカを吹くように仰せつかりました。実は、私が日頃ポケットにハーモニカを忍ばせていることを、ご存じだったので。私は冗談まじりに、大平さんに歌っていただけるならば吹きましょう、と申し上げたところ、話がまとまり、二人ともそれぞれの芸を披露して一夜の宴に興を添えることができました。

大平さんは、いつもの控え目な態度とは打って変わって、それは見事に、情感をこめて歌われました。外務省の方が何人も同席されていましたが、口々に、大臣の歌を耳にしたのは初めてである、あのように寛いだ気分の大平さんを拝見して、自分たちも大変嬉しいと洩らしていました。一方、キッシンジャー博士といえ、東南アジアと中国を歴訪した直後の訪日だっただけに、大変疲れていたのですが、大平さんの歌を聞いて大いに元気づ

けられると同時に、日本の方々の温かいお心遣いに認識を新たにしようとした。

一九七三年十一月、私は東アジア・太平洋担当の國務次官補として転出することになりました。離日に先立ち、私は家内と子ども私邸にお招きをいただき、大平ご夫妻から晚餐のおもてなしを受けました。これなども、大平さんの温かいお気持とお心遣いを物語るものと申せましよう。國務多忙のなかを、このように公務の枠を離れ、個人的なおもてなしを賜わり、家内も私も、大変感動いたしました。

外相時代の大平さんは、日米関係をより強固なものにするため、忍耐強く、嘗々と努力を傾けられました。たとえ遊説旅行中であつても、私が打合せのために帰国する折など、私との会談に急遽東京に戻られるほどでした。日米関係の強化を念願された大平さんのひたむきなご努力は、私の大使在任中とワシントンでの次官補時代とを問わず、一貫して私ならびに私のスタッフにひしひしと感じとられるものでありました。

一九七四年五月、大平さんが私の母校、エール大学から名誉法学博士号を授与され、その授与式に出席のため、当時東アジア・太平洋担当國務次官補だった私が大平ご夫妻をコネチカット州ニューヘイブンにお伴させていただきました。私としまして大変幸せに思っております。後日、大平さんは、生涯でも記念すべき晴れがましい日であつたと洩らされています。『私の履歴書』の中でも、このときのことを大平さんは、「この表彰状の朗読を聞きながら、私は、この学位こそは私に対してというよりは、日本と日本人に与えられたものであるにちがいない」と感慨に浸っていた」と述懐されておりますが、この偉大な人物の謙虚さが偲ばれるではありませんか。

一九八〇年五月十六日は、日米経済関係グループ（いわゆる「日米賢人会議」）が大平総理に中間報告を提出する予定の日でした。しかし、その日の午後、国会で不信任案が可決されたため、予定されていた私たちとの会

見は取止めの止むなきに至りました。

約束はかならず果たすという大平さんの人柄どおり、翌週の木曜日の五月二十二日、私たちグループを総理官邸での昼食会に招いてくださいました。ところが残念ながら、同日出席できたのはグループのうち、牛場元大使と第一勸銀の村本頭取と私の三名だけでした。

この昼食会の同席者は現在外相をされている伊東正義官房長官と秘書官の方々だけで、少人数の打ち解けた会合となりました。私が生前の大平さんにお目にかかったのは、これが最後となったのですが、大平さんはいつもと変わらない、悠揚迫らぬ態度で、先の金曜日起こった大平内閣の敗北について、実に淡々と話されたのが印象的でした。席上、内閣不信任案の支持に廻った人たちについて非難めいたことや恨みがましいことは一切ありませんでした。ただ、きたるべき選挙では、自民党こそが政権担当能力のある政党であることを訴え、自分も党も一丸となって必勝を期して努力しなければならない、と申されただけでした。

それから十日ほど後に、大平さんは心臓発作で倒れられ、入院されたのです。

謹んで申し上げますが、故大平総理とのお付き合いのなかで終始私が痛感させられたのは、総理がつねに内に秘めたる強靱な指導力を発揮されたということです。これは総理の生涯を通じての事実であることを、人からも伺っております。大平さんとの友情は私の永久に忘れ得ない、かけがえのないものです。

(元駐日アメリカ大使)